

平成 28 年度 第 5 回南区まちづくり懇話会 議事録

1 日時 平成 29 年 2 月 9 日(木) 午前 10 時から正午

2 場所 熊本市南区役所 3 階 大会議室

3 (1)出席委員

清本委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、吉村委員、井村委員、岡委員(副会長)、宮本委員、田中委員(会長)、金井委員、島田委員、

(2)出席職員

区長、区民部長、保健福祉部長、保健子ども課課長、南農業振興課課長、飽田総合出張所長、天明総合出張所長、幸田総合出張所長、南部出張所長、城南総合出張所長、飽田まちづくり交流室長、天明まちづくり交流室長、幸田まちづくり交流室長、南部まちづくり交流室長、城南まちづくり交流室長、富合まちづくり交流室長、

4 配布資料

(1)一会議次第

(2)一委員名簿

(3)一資料 1「南区まちづくりビジョン(概要版)」

(4)一資料 2「熊本市復興計画(概要版)」

5 次 第

(1)開会

(2)意見交換

〈テーマ〉 南区の魅力特性を活かしたまちづくりについて

(3)その他

(4)閉会

6 議事録

- 会 長 今日第 5 回の南区まちづくり懇話会となる。実質、この 2 期懇話会の最後の懇話会になるかと思う。いつものように楽しくやっていきたい。前回は、地域代表の皆さんに震災後の振り返りも含めてお話をいただいた。コミセン、公民館、まちづくりセンターについての話もあり、また、まちづくりの体制や地域でがんばっているまちづくりについてのご意見をいただいた。今日も同じように、第 3 期への引継ぎやビジョンの見直しであるとか、今後こういう懇話会にしていければとか、今後こういうまちづくりをというような申し送り事項等の話ができればと思う。今回は、熊本地震以降ということでテーマ毎の委員の皆さんから話をいただければと思う。
- 吉村委員 歴史とか文化は、以前、上田委員からお話があったが、衣食住等優先課題からすれば一番最後。ただ、そういう歴史・文化の取り組みが前の状態に戻ったときが、復興した時かなと思う。時間はかかるが、今は、何が壊れたかというような調査をやっていく時かなと思う。
- 副 会 長 今、吉村委員からは衣食住の後ということと、残すもの壊れているものの調査を話だったが、そういう歴史・文化というのは、地域の雰囲気をつくっていくとか、イメージを作っていくものではないか。
- 吉村委員 地域の史跡等でもとに戻せるものがどれくらいあるかを調べたが、そういったものは数基で、多くが撤去するしかないもので、既に撤去したものもある。そういったものの記録を残しておきたいという思いはあるが、調べていくのはこれから。
- 副 会 長 熊本城とか大きなものは取り組みがはじまっているが、地域のこのような地域の生活の中での財産のようなものに対して行政で何かの動きはされているか。
- 会 長 情報提供だが、国指定の史跡等には手厚い対応があっている。副会長が言われるのは、地域の大事な文化財だったり、地域の祭りにかかせないお堂だったりのことかと思う。そういったものは公費も使えない。東北のときも中越もそうだったが、地域のそういったものをまずは復興

させるのが大事だった。通常の文化財とかは後回しにされがちだが、逆にそういうものが引っ張っていく地域のまちづくり、復興があるのではないかということかと思う。

副会長 心のよりどころだと思う。

島田委員 富合に『井樋橋』があるが、今回の震災で壊れてしまい、それを復元は難しいとのこと。ただそれを忘れないように、活かし、語り継いでいこうということで、こじんまりとした小さな団体が発足した。この前は、この井樋橋をコースにいれた第1回ウォーキング大会が開催され、参加は少なかったものの、井樋橋の歴史を聴き、地域の清正の祠をまわるなどして、忘れないよう語り継ぐ取り組みをされていた。今後、年一回でも二回でも続いていけばと思う。

副会長 記憶の継承が大事。

金子委員 井樋橋は、400年前、清正の時代に灌がい用として作られ、馬門石が使用されている。水門は潮の満ち引きによって自動で開閉するようになっているが、なかなか知られていない。

清本委員 市からだったと思うが、自治会にそういった地域の神社や史跡等がどれくらい壊れていて、また、概算でいいので、修復にどれくらいかかるのか教えてほしいという調査があった。また、新聞にも先日、そういったものへ公費で半額程度の補助があるというような記事が載っていたが、その後どうなったか分からない状況。地域の状況把握は、ぜんぜん進んでいない。

吉村委員 河尻神宮の場合、本体と別に、大小あわせると60くらいのお宮がある。境内に3つあるが、それと別に川尻地域に50以上存在していて、壊れたところをどうするか宮司さんも頭を悩ませている。お宮も被害が大きく1割程度はお宮から補助をするが、川尻関係の地域のお宮は地域でどうにか対応してほしいという話をされている。宗教施設への公費の支出については、いろいろと言われているが、そういったお宮とかは地域コミュニティの中心ということで、支援をされた前例があり、熊本でもそれができないかという話がでていっているところでは

ないか。

まちづくり推進課長 確かに、熊本県の復興基金からそういう目的に使っていいという予算はおりてきている。ただ、吉村委員からのお話のとおり、政教分離の原則から支援は決まっているが、制度設計が遅れており、新年度からの仕切りなおしになっている。

地域の調査は市がお願いしているところ。また、東北では、外郭団体等にワンクッションおいて支援する対応をしたようである。

副会長 他に地域でこういう話があがってきているところはないか。

金子委員 富合地域にも河尻神宮のお宮があり、修復をどうするかの話があがっている。

上田委員 先日の自治協会議の際にそういったお尋ねがあった。新年度にお知らせがくるので、今しばらく待ってほしいという回答をした。半分くらいの補助では説明したが、いろんな条件がつくことが想定され、難しい話。

会長 非常に難しい問題で、益城でもいろいろあり、県でもいろいろあっている。震災以降の問題とまちづくりの問題と、防災教育の問題が複雑に絡んでいて、この3つの分野は、皆、リストを作るのがだいすき。そのため、各々、別々のリストを持ち、かつ、市町村と県で二重になっていて、今からまたいろいろとあると思われる。南区でしっかりやることは大事で、連携は大事。

最初、吉村委員からあったように、後でいいことではなくて、今作っておくことは大事で、もう出来ていると思う。ただ、先ほどの3点、どこまでがどれ、ということをもんがが理解していけばいいのではと思う。

副会長 先を見越して動くといいと思う。テーマを少し変えて、井村委員、自然はどうだろうか。

井村委員 南区の人はまだ、南区全体の自然を知らなすぎる。出来るかどうかかわからないが、南区の自然を知るということで、例えば、南区を北と南に分け、各々を見学するというような取り組みができないかと思う。

副会長 緑川を境にとか。

- 井村委員 そういった取り組みでもっと、南区の自然を知ってもらえるようなことをすれば、素晴らしいアイデアが出るのではないかと思います。そうすることで、南区はとんでもないことをしているということで、他の区にいい広報になる。広報でも1点。熊日販売店が新聞の折込みで地域の出来事をのせたカレンダーを折り込んでいる。南区の広報にこういったものを活用すれば、意外とみんなの目に留まるのではないかと。そういうものの活用が有効な広報になるのではと思う。
- 兼田委員 幸田地域はそういった折込みはない。
- 上田委員 城南では、地域のニュースを掲載したものを配布している。
- 島田委員 富合でも地域の行事や学校の行事等、その裏面を活用して広報されている。
- 副 会 長 熊日さんにお尋ねしたい。今のシェアはどれくらいか。
- 熊日記者 新聞を取っている人のシェアでいうと、7~8割程度。
- 田中会長 情報発信について、区にもお尋ねしたい。以前、まちづくり交流室に設置した情報発信コーナーの利用状況はどうか。
- 区民部長 公設公民館の講座等情報は公設公民館に、地域の共有情報(イベント等)はまちづくり掲示板にということで、分かりやすいよう利用を分けている。
- 金子委員 富合では自治協が年4回ほど地域情報紙を発行している。
- 会 長 広報には2種類ある。インフォメーションともう一つはニュース。そういう意味では、行政からの情報と地域からの情報をどう発信していくか。まちづくりセンターができれば、そこも改めて考えていく必要がある。
- 宮本委員 私は、健康のことが一番気にかかるテーマ。高齢化が進む中、健康寿命をどれだけ延ばして長生きするかが重要。心身ともに健康で長生きしていく取り組みが必要。

- 辻田委員 3月12日に日吉東校区でウォーキング大会を実施する。その際には、保健師さんに来てもらって4種類ほどの健康チェックを実施してもらっている。
- 保健子ども課長 平成24年度から、熊本市全域で健康まちづくりを推進している。健康をツールにまちづくりを進めてもらっており、南区では、21校区中19校区で健康まちづくり事業に取り組んでもらっているところ。ただ、押し付けでは継続しないので、自治協等をお願いして、これまでの取り組みを健康まちづくりに絡めて周知するとか、連携しながら、実施されているところもある。
- 井村会長 天明でも、ウォーキングと絡めて実施している。
- 金子委員 富合には、以前から各地区に健康まちづくり推進員が設置されていて、今年も、雁回山のたけのこ掘りウォーキングを実施したりしている。
- 兼田委員 健康寿命は大事。先日、特定検診に行ってきたが、安価で健康確認ができる。もう少し、周知を徹底すれば、受診者も増えると思う。また、最近、健康格差が出ているように思う。
健康な人は、グラウンドゴルフやウォーキングを一生懸命やっているかと思えば、病院には寝たきりの人も多い。
- 金子委員 富合は健康まちづくり推進委員がチラシをもって、各地域を回っている。
- 保健子ども課長 国保年金課が中心となって、あらゆる方法で周知を行なっている。だが、なかなか検診率が上がらない。富合・城南は以前、集合検診という形でがん検診等と一緒にやっていたこともあり、形を少し変えたが、今もそれを踏襲して実施しているため検診率も高くなっている。
- 副会長 情報を受け取る側の問題とも思える。
- 兼田委員 富合・城南は平均寿命も高い。
- 上田委員 大田黒浩一さんや村上美香さんなどが周知をしたことがあったが、そ

のときは、女性の検診率が高くなった。

金井委員 まちづくりの実働部隊としての話をしたい。私のお寺も今回の震災で被害を受け、川尻の他のお寺も同様。ただ、お寺の若い世代で何かできないかと考え、昨年に引き続き、「お寺 de フェスタ」を開催したいと考えている。川尻はお寺が多く、半分以上のお寺が参加する。家族で色々体験してもらえるイベントにしていきたいと考えている。宗派の垣根を越えた震災供養をはじめ、精進料理の提供だったり、お守りづくりだったり、出張動物園だったり、棺おけ体験等、8 寺を使っていろいろなイベントを実施する。

このような、お寺の活用もまちづくりの形のひとつの答えかなと思う。こういう活用をしていくことも出来るということを知ってもらい、お寺にいろいろなまちづくりの際に声をかけていただければと思う。

井村委員 お寺の被害もひどく、門徒あたり 30 万の寄付とも聞く。それくらい、お寺も困っていると思う。イベントの際には賽銭箱でも置いておいたほうがよい。

金井委員 お寺の修復には高額のコストがかかる。私たちも預かっている身であり、悩ましいところ。

会 長 川尻の「お寺 de フェスタ」の話は大事なキーワードがたくさんあったと思う。川尻だからできることとか、宗派、年代を超えてとか、歩いて体験するとか。来年度のまちづくり懇話会での議論も大事だが、今、実働部隊という話をされたが、担い手が現場から情報を発信できる機会ができればよいと思う。そういった若い人たちのグループを、現場部隊を作ることができないかと思う。

金井委員 まちづくりセンターの人たちが入って、うまく繋ぎをやってくれれば可能と思う。

会 長 南区のチャンスだと思うし、他の区にはない南区の魅力だと思う。

副 会 長 まちづくりセンターの形が見えてきたような木がする。

会 長 地域に若者はいるが、偏りがある。それがテーマで繋がると南区として

の一体感が出てくる。さきほども健康まちづくり推進員の活動とか、情報発信の話があったが、地域担当職員を支える器だと思う。南区の地域担当職員になってよかったといってもらえる区になればよいと思う。現場感のある人たちが地域担当職員として配属されると思う。そういったつながりや組織は大事。

副会長 先ほどの井村委員の南区の南北の情報提供の話にも共通する。

上田委員 城南もお寺が多く、川尻も多い。兵庫県の伊豆津市の話で、お寺の特徴をまち歩き案内人が説明して回ったり、個別に見て回ってもお寺のことが説明してくれたりとの取り組みがあった。城南でそれができないかなと思いながら実施できていない。ただ川尻はそれができるとし、フェスタも年 1 回ではもったいない。川尻のフットパスコースもできているし、それと連携しながらできないか。お寺が復興した後でよいので。

金井委員 モデル地区として実施できれば他へいい影響になると思う。

会長 今、復興フットパスとかも考えられている。歩くのは基本で南区もかなりまち歩きをやった。最初は、川尻で年に 1 回。加えて出張して城南でやって、うまくできれば、南区内で四季に応じてやるとか。低いハードルから実施できればよいと思う。

吉村委員 今、東区が託麻三山 88 ケ所めぐりをやっている。南区のお寺を数えると 88 に近くはなる。人吉、球磨でもやっている。南区でもなにかできないかなと思う。お寺の数としてはちょうどよい。

上田委員 老人会の年に一度の旅行等にこういうイベントが使えないかなと思ってこの話をした。周知についても、ネットでは高齢者は見ないので、チラシ等で周知の方法を考えるなりして。

兼田委員 例えば年の開催を分けるとか、南区の地区は 4 つ(城南・富合、飽田・天明、幸田、南部)に分けられると思うので、その地区毎に実施するとか。ただ、幸田は何もない、例えば、お隣の地域で開催するそのようなイベントをお隣の地域までチラシとかで周知してもらおうとかいいと思う。

金井委員 南区に聞きたいが、こういった横のつながりで周知方法はないか。

- 上田委員 例えば、この懇話会の機会周知するとか。
- 兼田委員 システムとしてきちんとした形でできないかと思う。
- 上田委員 城南ではコミセンに地区の情報版を置いた。自治会長がとりにくる必要はあるが。自治協用の箱も作って周知している。
- 副会長 今後に繋ぎたいことで、他に何かないか。
- 島田委員 まちづくりを進めるには、やはり、人が集まって話すことが重要。昨年は、体育協会も地震の影響であまり取り組みができなかったが、やはり球技大会とかは動ける人しか集まらない。そういったときにフットパス等いろんなイベントと連携しての取り組みをすることも大事かなと思う。
- 会長 個人的にはイベントはかぶっているものが多く、もったいないと思う。減らすことも大事だし、島田委員が言われたように、連携できるものは連携してやるのが大事だと思う。島田委員から見て、これは連携したほうがとか、効果的だなとか思えるものがあるか。
- 島田委員 防災関連は一緒にやればよいかと思う。炊き出しを女性部と一緒にとか。
- 金子委員 富合の健康まちづくりの事業のたけのこ掘りウォーキングでは、健康チェックや炊き出しも連携してやっている。子どもたちも楽しみにしている。昨年は震災で中止になったが、今年は実施したいと思う。
- 副会長 イベントが地域をつぶすという本が出ている。ここにおられる委員はイベントごとにかかり出されて大変な思いをされている方も多いと思う。地域での交通整理は必要だと思う。
- 島田委員 地域の体育委員など、参加年代を分けて協力をお願いしているので、やりたくないという声も上がってきている。時間帯とか参加できる年齢等を区切らないとか、工夫をする必要があると思う。
- 副会長 役員の担い手不足も問題になっていると思う。

- 兼田委員 町民体育祭も曲がり角に来ていると思う。昔どおりでなく、健康まちづくりと絡めるとか、そういったことを考えていく必要がある。
- 副会長 今回の震災は、みんなが地域を見直すキッカケになったと思う。地域の寄りどころも必要になってくるし、健康寿命も考えつつ、いろんなことも併せて考えながらまちづくりを進めていく必要があると感じた。
- 会長 我々の仕事でもそうだし、行政もいろいろな部署が個別にまちづくりをやっているが、地域のこと区民のことを考えると、本当はその垣根を取り払う必要があるのではと反省も含めて思ったところ。もうひとつ、みなさん「南区」という言葉をよく使っていた。これまでは、校区単位での考え方だったと思う。そういった意味では委員のみなさんは南区としての考え方を醸成できてきたことが懇話会の成果のひとつだと思う。区長からまちづくりセンターとか地域担当職員のこととかで、何かお話はあるか。
- 区長 今日たくさんお話をいただいたが、私も同じで、キーワードで出ていた「若い世代」であるとか、「組織づくり」とかのことを考えていて、今あるPTAの役員の皆さんを取り込んでつながり、取り組みを広げていければと思うし、それを地域担当職員のテーマとしたいとも思っている。地域担当職員は1人で複数校区を担当するため、全てを担当職員にふることは負担になる。そういった意味では、区長がそこを頑張ってやっていかなければならないということと、こういった懇話会の場にも、PTAの方たちを取り込んでいくことが必要とかそういう話をさせていただいた。
- また、南区でやっている「いきいきフェスタ」のようにつながりをもってやっていく、地域連携ができるような実行委員会形式の取り組みが必要になってくると思う。
- 会長 前区長も「南区はこれでいいのです。」という言葉をよくいただいたし、田畑区長も「南区から変えていく」「南風を吹かせていこう」ということを言っていた。そういった意味では、これからもそういった雰囲気を引き継いで、挑戦していく南区まちづくり懇話会であり続けてほしい。真ん中はいやなので、常に南区が引っ張っていくようなことが大事。

- 吉村委員 行政として、個別のお寺の支援はできないかと思う。お寺に限らず、例えばそういった個別の南区協議会ができて、そこを通して支援をしていくとか。方法がないかと思う。
- 上田委員 お寺は檀家さんがいるのでなんとかやっていけるが、神社はそうはいかないようで頭を悩まされていた。
- 会 長 南区は特異で、仮設住宅をたくさん抱えている。熊本地震を忘れない意味では大事。そういうことも、まちづくりの中にうたっていったほうがよいと思った。
- 副 会 長 今、みなし仮設住宅の扱いも問題になっている。自治会等でみなしに移ってきた住民の方とか、そういった人たちの把握まで必要かという話があって、いろいろと大変な状況になっている。
- 井村委員 この懇話会でこんな活発な意見がでている。これを地域にどれだけ伝わっているかと思う。自治会長や校区自治協議会長等の傍聴は必要かと思う。
- 会 長 確かに、今後、出張懇話会とか、形を変えてのシンポジウム形式とか、形を変えて開催していても良いと思う。